

コース38 じょうねんだけ 常念岳

リーダー CL T/Y

実施日 平成28年10月12日(水)、13日(木) 天候 晴れ時々曇り

参加者 8人(男性 3 女性 5) グレード C~C上

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
12日 秋葉区役所前		5:17	新井7:10、姥捨8:35、ほりがねの里9:20
一ノ沢登山口	9:35	9:50	道の駅「ほりがねの里」で登山準備
王滝ベンチ	11:20	11:40	早めの昼飯
常念小屋	15:13	6:30	13日の朝食は5:30
13日 常念岳山頂	7:45	8:30	360度の展望を楽しむ
常念小屋	9:30	10:00	置いていたリックに荷物入れ替え
一ノ沢登山口	14:05	14:20	登山靴を履き替えジャンボに乗る
ほりでの湯	14:45	15:40	常念岳が見える温泉。小布施、米山経由
秋葉区役所前	19:30		予定より早めに到着

山行等概要(幹事のコメント)

- 紅葉の最盛期企画も先月の連続台風で木々には葉がほとんどない、登山道にはコメツガ倒木がふさいでおりまして、一ノ沢を丸木橋で数か所渡りせせらぎの音を聞きながら歩きました。
- 胸突き八丁の急登まではハイキングコース、最後の小屋までの800mはキツイ道でした、途中で三ヶ所ベンチが設けられているのに納得しました。
- 夕食前のストーブのある暖かい談話室で恒例の ミューテング、最後の常念乗越までのキツイ登りに手を焼きましたが、持ち寄ったつまみ缶ビール、日本酒、ワインは500円で売店から求められる、乾燥室も完備、先月雨の朝日連峰の縦走の小屋とは雲泥の差でした、山頂から蝶ヶ岳方に少し向かう事になりました。
- 二日目(13日)朝食後小屋前からご来光を仰ぎ、赤く染まる穂高連峰の峰々天空に突き刺す槍ヶ岳の英姿に感動しました。
- 小屋から山頂に向かう登りは見晴らし良いが、急な登りが延々とつづき、足元には浮石が多くそれに10cmくらいの霜柱が立ち、上は見えるがなかなか到達しない、前常念岳への分岐を超え、岩を登りようやく常念岳山頂に到着、360度の展望、穂高連峰はもちろんのこと大天井岳の奥に燕岳、7月に登った鹿島槍ヶ岳の後立山連峰、八ヶ岳、富士山、南アルプスと最高の展望に満足し少し先に行くミューテング時の話は消えました。



常念岳山頂 2,857m

- 下山道も雲海に浮かぶ後立山連峰山々、穂高連峰の景色伴奏にルンルン気分で、リックの置いた常念小屋に戻り身支度を整い、もう危険箇所も登りもない下山コースに安堵しました。
- 青息吐息で登りつめた、胸突き八丁も下山時は一ノ沢の清流を見ながら爽快な道でした、その後は数か所にコメツガの巨木倒木が道を塞ぎ、葉が青々しておりましたし全く開通作業がなされない、そんな訳で下山時刻は一時間近く遅れました。
- 楽しみにしていた日帰温泉のカットと内心の思いつつ、顔なじみの安中ドライバーに予定の一時 間入浴をお願いし OK でした、小布施 SA 土産調達時間も確保しました。
- 今シーズンの担当山行は常念岳で終わりました、会津駒ヶ岳、鹿島槍ヶ岳といずれも良い天気にも恵まれました、燕岳から始まりました 100 名山企画も今シーズンで最後にいたします。

「常念岳」に参加して

(1311) K/N

堂々たるピラミッド型の常念岳、十数年ぶりに会える、まるで昔の恋人にでも会い行く様なワクワクドキドキの心境でした。

朝五時秋葉区所出発、お天気は心配なしジャンボタクシーは一路、常念岳登山口の一の沢へと順調なすべり出し、十時少し前に登山口に到着、身支度を整えて爽やかな秋風と陽射しの温もりを受け出発、一の沢左岸沿の樹林帯を進む、台風の影響で数か所巨木が道をふさぎ、倒れた大木と格闘したり、一の沢左右何回も丸太橋渡りました。

樹木は葉が散り期待していた紅葉は、登山道に散乱しておりました、二時間近く登り早めの昼飯もそこそこに、鳥幅子沢、笠原沢出会いも難なく通過「胸突き八丁」の名物難所に到着、ハアハアフウフウとあえぎながら登ること 30~40 分「路肩注意」「滑落注意」の札を目にしなが、三ヶ所のベンチを過ぎ、ハイマツ帯に入るとただ広い常念乗越の標識が目飛び込んできた「ヤッター小屋が見えたあ〜、常念小屋に無事着ことができました。



登山口にて



せせらぎに励まされ



幾度も丸木橋を渡る



一ノ沢から離れる



胸突き八丁目



もくらむ崖道

すごーい槍だあ〜」次から次へと歓喜がつづく中、

夜の宴会もそこそこに、翌朝四時起床のこともあり早目に就眠しました。
二日目四時起床、五時半朝飯後、小屋前でご来光を拝み、振り返って見ればご来光に照らされた穂高連峰の峰々、オレンジ色に輝く槍ヶ岳をメインに穂高の山々が赤く染まる光景はドラマチックでした。

すごい景色の後押しで小屋を山頂へ出発、中々どうして楽ではない、迫力ある山が立ちはだかる様に見え足元は浮き石石石だらけの登りがつづきます、けれども眺望のいい登山道を登りきり山頂から見える槍、穂高連峰の峰々が広がり、360°の大パノラマ、雲海とのコントラストもワンドラマ、素晴らしいの「一言」つきない眺望に別れを告げ小屋に戻り、登って来た道を下山、このルートは来る時と反対で胸突八丁を過ぎれば後は緩やかな道、四時間強と長く、山深さを感じながら下りました。

前は夏だったので、クルマユリ、トリカブト、シシウドが咲き誇っていたことを思い出しました、何事もなく出来、美しい大パノラマ、星空、雲海年と共に登山の楽しみ、苦しみを心に刻みながら、自然、人との出会いに感謝し、雄大なパノラマ、宝石箱をちりばめたような星空、久しぶりに見た雲海。アルプスの醍醐味に魅了された二日間でした。

リーダー・サブリーダー・会計さん、他の皆さんお世話になり本当にありがとうございました。登山の楽しみ、苦しみを心に刻み自然、人との出会いに感謝し、又、新しい出会いに心ときめかせてます。



常念小屋に到着



夕食前のミーティング



常念小屋内



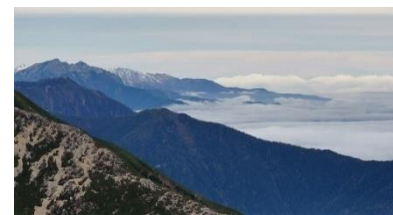
常念小屋



山頂へ浮石に注意



朝焼けの常念岳



7月登った鹿島槍ヶ岳



上高地と御嶽山



名物 赤槍ヶ岳